

若手音楽家育成事業 プラットワンコインコンサート
ムジカ・ワヤ「わや！なおもちゃ箱」

2025年5月30日 金曜日
午後2時開演
穂の国とよはし芸術劇場プラット
アートスペース

出演

サクソフォン たけだりょうが
ピアノ いちいゆうか

【プログラムと解説】

1. りす

デュボア作曲

ピエール＝マックス・デュボアはフランスの作曲家。1930年生まれ1995年没。
サクソフォンをはじめ管弦楽器のために多くの作品を残してきた作曲家であり、
クラシックの中でも気楽で聴きやすい、ユーモラスな作品を数多く残している。
演奏時間は約1分と短く、りすの可愛らしさや、走り回る様子が表現されている。(執筆 たけだ)

2. リラの花

作品 21 第 5 番

ラフマニノフ作曲

セルгей・ラフマニノフはロシアの作曲家。1873年生まれ1943年没。
もともとは歌曲(声楽曲)であり、春の訪れと淡い希望、
そして自然への憧れを表現した非常に美しい小品で、
ラフマニノフ自身でピアノ独奏用に編曲された。
ラフマニノフ本人の演奏音源も残っており、ロマンティックな旋律と
感傷的で柔らかな響きが魅力である。(執筆 いちい)

3. 春の唱歌メドレー

たけだりょうが編曲

春にちなんだ唱歌より、「花」、「春が来た」、「さくらさくら」、「蛍の光」、「ちやつみ」の5曲を
武田りょうが編曲によるメドレーで演奏する。本公演が初演。
唱歌は、日本の学校教育で西洋の文化を取り入れるため、
明治時代から昭和初期にかけて誕生した。
日本の文化遺産の一つとされ、郷愁を誘う存在として親しまれている。
一方、サクスは19世紀にベルギーで誕生した比較的新しい楽器である。
そのため活躍する音楽ジャンルは多岐にわたるが、ジャズの象徴楽器としても有名なため、
今回はその特性を活かしたお洒落な編曲でお送りする。(執筆 いちい)

4. ソナタ 第1楽章

リュエフ作曲

ジャンヌ・リュエフはパリに生まれた女流作曲家。1922 年生まれ 1999 年没。
1967 年に当時の名手デファイエに献呈された無伴奏アルトサクソフオンのための作品。
全3楽章からなる作品だが、今回はその中から1 楽章のみを抜粋して演奏する。
一聞掴み所のないように聴こえるが、
実のところ譜面にはリズムや強弱などがかなり精密に記されたオートマティックな曲。
冒頭のリズミカルな主題が形を変えながら展開される。(執筆 たけだ)

5. カフネ

たけだりょうが作曲

カフネとはポルトガル語で「子供、家族、恋人などの髪にそっと指を通す仕草」を意味する語。
2023 年に開催した武田りょうがサクソフォンリサイタルで初演した本作品は、
『ぬかるみの食卓』というコミック作品の主人公の心情描写を基に作曲した。
原作の内容は「勤め先の店長と不倫関係にある主人公とその周囲の人々との泥沼愛憎劇」。
主人公は自身の不倫関係について良くないと理解しつつも想いを止める事が出来ず、
この人とこの先一緒になれば、そんな叶いもしない願いに心を踊らせてしまう。
そんな主人公の若さと、ふと襲いかかる漠然とした未来への不安に心が乱れる様子を曲にした。
境界線を跨いでしまったが故に心を乱される少年少女の姿を、
また、この曲の主人公は最終的に幸せを手に入れる事が出来るのか、
想像しながらお聴きいただきたい。(執筆 たけだ)

6. 水の戯れ

ラヴェル作曲

モーリス・ラヴェルはフランスの作曲家。1875 年生まれ 1937 年没。
本作品は、印象派ピアノ音楽の代表作のひとつで、
ラヴェルが若い頃に作曲した革新的な作品である。
この曲の冒頭には、「水にくすぐられて笑う神」という意味のフランス語の詩が引用されている。
この一節からもわかるように、ラヴェルは水のきらめき、流れ、せせらぎなど、
水が見せる多彩な表情をピアノの音で表現しようとした。(執筆 いちい)

7. バラード

リード作曲

アルフレッド・リードはアメリカの作曲家。1921 年生まれ 2005 年没。
吹奏楽経験者なら誰もが一度は聞いたことであろう。本作品は 1956 年に作曲された。
幻想的な和声の上で、
3連符を多用したフレーズをサクソフォン独特の柔らかな音色で奏でるとも美しい作品である。
バラードというと叙情的でゆったりとした作品をイメージされることも多いのではないかと思うが、
この作品はその限りではない。美しさを残しつつも、随所に用意されたきっかけを基にして、
モチーフと和声が徐々に変化しながら展開されていく。
幻想的でどこか懐かしい、耳心地の良いスロー・バラードである。(執筆 たけだ)

8. サクソフォン協奏曲

作品 50

カプースチン作曲

ニコライ・カプースチンはロシアの作曲家、ピアニスト。1937 年生まれ 2020 年没。
無名時代が長いと言われる作曲家だが、
クラシックとジャズを融合させた彼の作風が著名なピアニスト達によって取り上げられたことで、
瞬く間に有名作曲家となった。

本作品は、カプースチンが唯一作曲したサクソフォンのための協奏曲。

クラシカルな要素も意識された冒頭から始まり、

ジャズやロックのテイストを織り交ぜたフレーズが次から次に展開されていくため、

約 15 分とは思えないほど密度が高い。

演奏には非常に高度な技術を要するが、決して難解な作品ではないため、

肩の力を抜いて楽しんで聴ける一曲である。（執筆 たけだ）

【出演者プロフィール】

たけだりょうが

愛知県刈谷市出身。愛知県立刈谷北高等学校を経て、昭和音楽大学演奏家 1 コースを卒業。

邪な理由で入部した吹奏楽部でサクソフォンを 13 歳よりはじめ、

現在はサクソフォンによる他楽器曲のアレンジや自作曲の制作、

演奏する等精力的に演奏活動をする他、

愛知県内をはじめとした吹奏楽指導や個人レッスンも行っている。

これまでに第 61 回国際芸術連盟主催新人オーディションにて最優秀新人賞、

第 38 回ジュニアクラシック音楽コンクール木管の部にて第三位(一位なし)、

及川音楽事務所主催第 49 回新人オーディションにて最優秀新人賞を受賞。

サクソフォンをきののりえ、おおもりよしきの各氏に師事。ジェロームララン、

ニキータズィミン各氏のマスタークラスを受講。

島村楽器音楽教室、徳川ミュージックアカデミー、パピーミュージックスクール、

ヨモギヤ楽器バルドンフィルステージ各講師。

いちいゆうか

大阪府出身。桐朋女子高等学校音楽科を経て、

名古屋音楽大学ピアノ演奏家コースを四年間継続特待生(学費全額免除)で卒業。

2024 年同大学院修了。第 17 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 高校生部門アジア大会金賞。

第 21 回浜松国際ピアノアカデミーコンクール第五位。

第 21 回大阪国際音楽コンクール Age-U 第二位。

ポーランド・シレジア・フィルハーモニー管弦楽団、セントラル愛知交響楽団と共演。

アンサンブルピアニストとして、I.コハーン(クラリネット)、きののりえ(サクソフォン)の

各氏のリサイタルで共演。これまでピアノをふくいあきこ、にのみやゆうこ、せきもとしょうへい、しみずこ
うきの各氏に師事。

現在、名古屋音楽大学授業補助員、伴奏員、及びアカデミー講師。

【スタッフ】

舞台：かたぎりけん

音響：さはらひろのぶ

照明：いけだとしはる

制作：たかだしょうこ いしだ あきこ

票券：かみくりようこ

主催：公益財団法人豊橋文化振興財団

企画制作：穂の国とよはし芸術劇場プラット

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）

独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人日本フィランソロピック財団による第1回「東海演奏家の架け橋基金」助成事業